

GEO 協議会 だより

26年2月1日

No.18

編集・発行：

～白・黒・赤を巡る旅～

美祢市ジオパーク推進協議会事務局

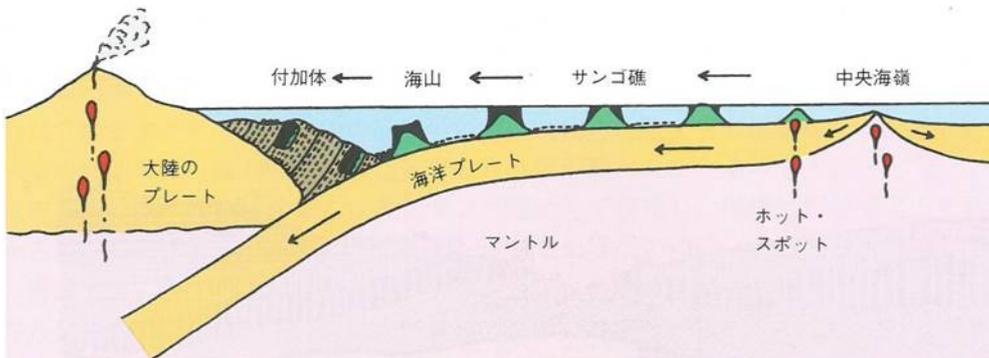
< 連絡先 : 0837-63-0055 >

IODP キャンペーン×美祢ジオパーク構想

平成25年12月23日(月・祝)に秋吉台科学博物館において、協議会主催の講演会『IODP(国際深海科学掘削計画)キャンペーン×美祢ジオパーク構想』を開催しました。午前と午後の二部構成で、午前中は『IODPキャンペーン in 山口～「ちきゅう」が解き明かす地球の姿～』と題し、IODPの活動内容や海洋掘削船「ちきゅう」とのインターネット中継に加え、九州大学の狩野先生にご講演いただきました。狩野先生は、掘削船「ちきゅう」に乗船されたこともあり、その際に、サンゴ礁が浅い海だけでなく、深海でも発達することを突きとめました。また、紀伊半島沖で掘削中の「ちきゅう」とのインターネット中継では、船内の様子や掘削の方法が伝えられると、会場からたくさんの質問が出され、来場者の皆様の関心の高さが伺えました。



「ちきゅう」とのライブ中継の様子



海山起源の石灰岩の成り立ち (秋吉台科学博物館 (1984) より引用)

『秋吉台は海からやってきた!～秋吉台の石灰岩のなりたちとジオパークへの期待～』と題し、秋吉台の成り立ちについてお話を伺いました。秋吉台の石灰岩は、約3億年前(石炭紀～ペルム紀)に赤道付近の海山(上図の緑色の部分)に発達した、サンゴ礁(上図の黒色の部分)がもとになっています。それが移動し、日本列島のもととなる大陸の縁にくっきました(くっついたものを付加体と呼びます)。海山起源の石炭紀～ペルム紀のサンゴ礁石灰岩は、世界的に研究例が少なく、研究の進んでいる秋吉台は、その代表と言っても過言ではないそうです。

今回の講演会では、研究者の皆様から最新の研究成果を踏まえた意見を直接聞くことができ、来場者の皆様に秋吉台のすばらしさについて学んでいただくことができました。今後も引き続き、ジオパークに関する講演会を開催する予定ですので、是非とも足をお運びいただき、美祢地域の魅力を改めて感じてみてはいかがでしょうか。

午後からは、「美祢ジオパーク構想」の実現に向け美祢地域の魅力を再発見するため、秋吉台で実際にボーリング調査を行っている(独)産業技術総合研究所の中澤先生より、『秋吉台は海からやってきた!～秋吉台の石灰岩のなり



中澤先生のご講演の様子

おおいた豊後大野ジオパークに行ってきました！

平成25年12月15日(日)に、同年の9月に日本ジオパークに認定された**おおいた豊後大野ジオパーク**で、ジオパーク認定記念シンポジウムが開催されました。おおいた豊後大野ジオパークは、大分県の南部に位置し、丘陵と山林からなる自然豊かな地域です。シンポジウムでは、日本ジオパーク委員会の委員で、東京学芸大学の小泉武栄先生による「ジオパークの可能性と将来性」と題した講演が行われました。小泉先生は、ジオパークの目的は**貴重な自然の保全**だけではなく、それを**研究や教育**に生かし、さらには**地域の持続的な発展に寄与すること**であると述べられました。また、「なぜこのような風景が広がっているのだろうか？」というような**「なぜ？」の発想を常に持つことが大事である**とお話をされるなど、大変勉強になりました。この他にも、地域の地質遺産や生物多様性についての研究発表や、地元の小学生によるジオパーク活動への取り組みについての発表、おおいた豊後大野ジオパークの今後の展開についてのパネルディスカッションなどがありました。このシンポジウムで学んだことや得たアイデアなどは、美祿地域における今後のジオパーク活動にどんどん生かしていきたいと思えます。



シンポジウムの様子

第6回 教えて！じおくーん

地質学専門員の「じお」です！今回は、おおいた豊後大野ジオパークについてご紹介します。



沈墮の滝



出会橋（奥）・轟橋（手前）

おおいた豊後大野ジオパークは、「**そしていま、ぼくらの時代～巨大火砕流から9万年。大地に祈り、いかされ～**」をテーマに、約9万年前におきた阿蘇山の巨大噴火と、その影響を大きく受けた大地や動植物、そして、大地に密接に結びついた人々の歴史や文化、生活を紹介する場所です。約9万年前の阿蘇山の巨大噴火では、火砕流（噴出した溶岩や火山灰などが混ざり、山をかけ下ったもの）が九州全体を覆い、豊後大野地域でも半分ほど（約300km²）が埋めつくされました。左上の写真は「**沈墮の滝**」と呼ばれる幅100m、落差20mの滝で、前述の火砕流が冷え固まってきた岩石が、崩落してできたものです。また、左下の写真は「**出会橋・轟橋**」と呼ばれる、大正の終わりから昭和のはじめにかけて立て続けに作られた石橋で、その材料には、火砕流が冷え固まった岩石が使われています。このように、豊後大野地域の地形や人々の暮らしには、阿蘇山の火砕流が密接に関係しています。おおいた豊後大野ジオパークでは、それらを通して地域や地球のすばらしさを地域内外の人々に伝え、地域の持続的な発展を目指しています。